

「夢あおば」の適正な肥培管理と 成熟後の脱粒程度、籾水分

【背景】

本県では、国の水田活用の直接支払交付金の飼料用米助成制度の見直しに対応するため、飼料用米多収品種「夢あおば」及び「月の光」の生産拡大を推進しています。

「夢あおば」は収量性が高く、低コスト栽培が求められる飼料用米生産に適した品種ですが、肥培管理体系が明らかになっていません。また、「夢あおば」は早生品種であることから主食用米と収穫作業が競合しやすいと考えられ、主食用米収穫後まで収穫を遅らせて、「立毛乾燥」が可能であれば、より低コストや省力化につながると考えられます。

そこで、本試験では、「夢あおば」の適正な肥培管理の検討及び「立毛乾燥」に対応できるかについて試験を行いました。

【結果】

移植は5月23日及び6月14日としました。

(1) 適正な肥培管理

5月移植及び6月移植ともに、最も多収な試験区は、「基肥窒素 0.9kg/a + 追肥窒素 0.5kg/a」で、**いずれの移植時期でも精玄米重は 70.0kg/a 以上を確保できました**。基肥窒素で総籾数が確保され、追肥により登熟度（登熟歩合×玄米千粒重）が向上し、多収になったと考えられます（表2、3）。一般的な水稻品種と同じように、5月移植と比較して、6月移植で稈長が長くなる傾向でした。

(2) 立毛乾燥への対応

脱粒率は5月移植で最大 10%超、6月移植で最大 6%程度の脱粒が確認されました（図1）。籾水分は、5月移植は成熟期の12日後で 15.2%、6月移植は11日後で 15.3%と乾燥が進みました（図2）。翌年「夢あおば」を作付する場合は問題にはなりません**が、主食用品種を作付する場合は、漏生対策が必要と考えられました**。

今後は、適正な肥培管理に加え、疎植栽培、高密度播種への適応性も確認し、低コスト栽培法の確立を目指します。

表1 試験の内容

品種	基肥窒素 kg/a	追肥窒素 kg/a	追肥時期
夢あおば	0.6	0.5	出穂前20日
夢あおば	0.9	0.5	出穂前20日
夢あおば	1.2	0.0	追肥無施用
夢あおば	1.4	0.0	追肥無施用
月の光	0.6	0.2	出穂前20日

表2 5月移植の収量等

品種	基肥窒素量 kg/a	追肥窒素量 kg/a	成熟期	倒伏 0:無~5:甚	精玄米重 kg/a	穂数 本/m ²	一穂粒数 粒/穂	総粒数 百粒/m ²	登熟歩合 %	玄米千粒重 g	登熟度
夢あおば	0.6	0.5	9月16日	0.0	81.0 a	272 a	126 b	343 b	89.9 a	26.3 a	2366
	0.9	0.5	9月17日	0.0	85.8 a	304 a	130 ab	396 a	85.3 b	25.4 b	2165
	1.2	0.0	9月17日	0.0	83.3 a	307 a	131 ab	404 a	84.9 b	24.3 c	2063
	1.4	0.0	9月18日	0.5	80.7 a	305 a	136 a	414 a	81.6 b	23.9 c	1950
月の光	0.6	0.2	9月21日	0.0	63.7 b	311 a	100 c	310 b	93.3 a	22.0 d	2056

注1) 精玄米重(篩い目1.7mm上)、玄米千粒重は水分14.5%換算値。
 注2) Tukey法により、異なるアルファベット間に有意差あり(p<0.05)。

表3 6月移植の収量等

品種	基肥窒素量 kg/a	追肥窒素量 kg/a	成熟期	倒伏 0:無~5:甚	精玄米重 kg/a	穂数 本/m ²	一穂粒数 粒/穂	総粒数 百粒/m ²	登熟歩合 %	玄米千粒重 g	登熟度
夢あおば	0.6	0.5	10月8日	0.0	75.7 a	282 c	122 a	344 ab	86.8 ab	25.3 a	2200
	0.9	0.5	10月10日	0.3	77.0 a	310 b	125 a	389 a	81.8 bc	24.2 b	1978
	1.2	0.0	10月8日	0.5	71.2 a	329 b	110 b	362 a	83.3 bc	23.7 bc	1971
	1.4	0.0	10月9日	0.4	71.0 a	322 b	119 a	385 a	79.6 c	23.2 cd	1843
月の光	0.6	0.2	10月6日	0.0	62.7 b	359 a	84 c	301 b	93.3 a	22.4 d	2087

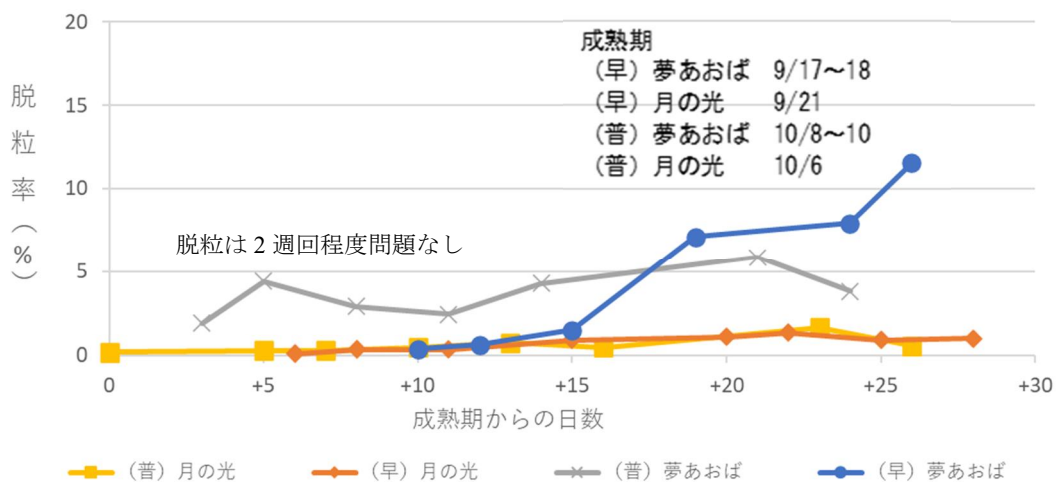


図1 脱粒率の推移

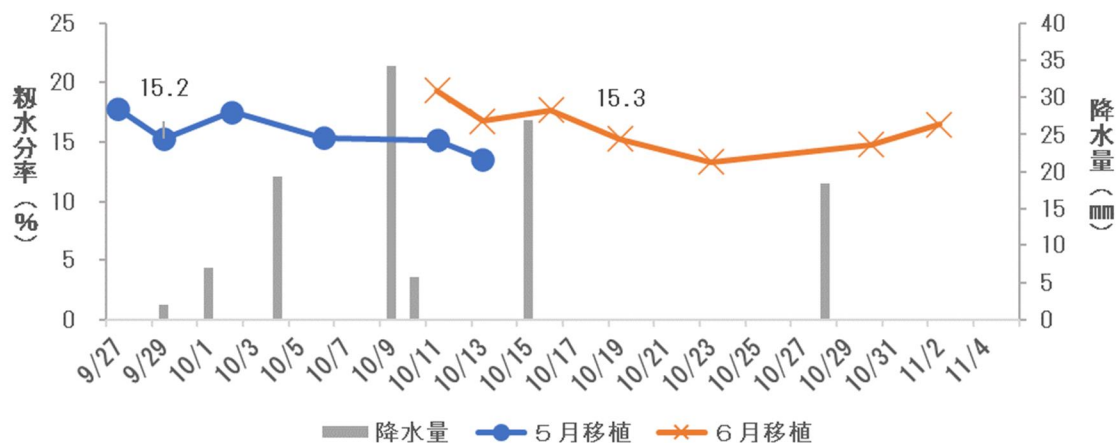


図2 籾水分の推移と降水量